

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 25 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降、弥陀ヶ原周辺では地震活動が活発な状態となり、2011 年 10 月から 11 月には、さらに活発化しました。その後、周辺の地震活動は低下しつつも継続しています。一方、弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しました。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 地震や微動の発生状況（図 2）

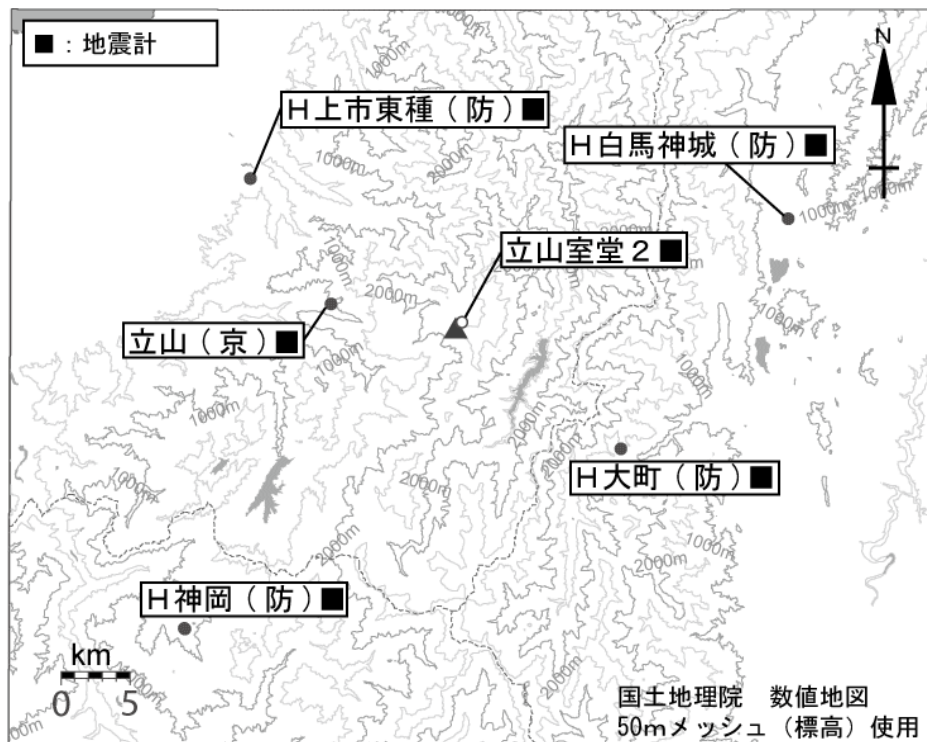
弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・ 噴気・地熱等の状況（図 3、図 4）

7 月 2 日に地獄谷噴気地帯の紺屋橋南西斜面、鍛冶屋地獄の一部について現地調査を実施しました。紺屋橋南西斜面では、引き続き活発な噴気活動が認められました。

昨年（2012 年）9 月に 146.7℃を観測した噴気孔では、轟音と共に激しく噴気が出ていました。噴気孔内には溶融した硫黄が確認でき、その温度は 122.3℃となっていました。

その他の噴気孔についても、引き続き 100℃前後の噴気温度が観測されたほか、新たに遊歩道上に噴気孔が形成されるなど噴気孔の様子に変化している場所や、硫化水素ガスを検知した場所もありました。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図 1 弥陀ヶ原 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 8 月分）は平成 25 年 9 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

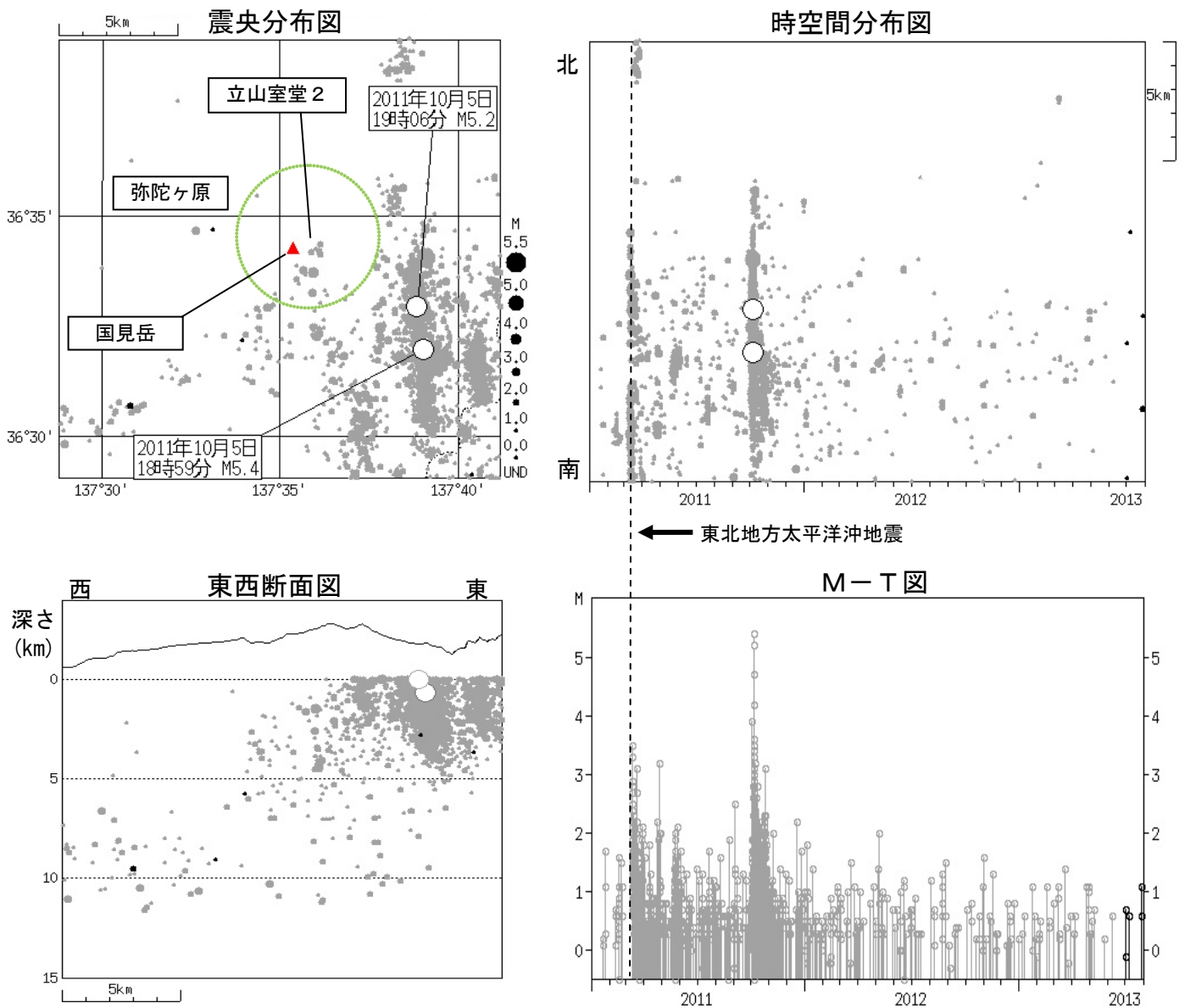


図2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2013年6月30日）

●：2011年1月1日～2013年6月30日 ●：2013年7月1日～7月31日

- ・ 緑色の点線の円は、立山室堂に設置した地震計（立山室堂2）でS-P時間1秒以内となるおよそその範囲を示します。
- ・ 今期間、周辺の地震活動は低下しながら継続しています。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調な状況で経過しました。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。



図3 弥陀ヶ原 地獄谷紺屋橋南西斜面で最も活発な噴気孔のようす

左上 赤矢印部分と赤丸内に激しく噴気が出ている噴気孔があります。

右上 左上写真赤丸内の噴気孔のようす。二つの噴気孔（A、B）があります。

左下・右下 噴気孔A、Bのようす。

A、B噴気孔の噴気等の温度は以下のとおりです。（2013年7月は溶融硫黄の温度、昨年分は噴気温度）

A噴気孔 2013年7月 129.4℃、2012年10月 100.0℃、2012年9月 113.0℃

B噴気孔 2013年7月 122.3℃、2012年10月 140.1℃、2012年9月 146.7℃



図4 弥陀ヶ原 地獄谷遊歩道上に新たにできた噴気孔。

遊歩道が陥没し湯だまりができていたが、今回の確認時には湯だまりは無くなり噴気のみとなっていました。この場所では、ポータブルガス検知器で、測定上限値（100ppm）を超える硫化水素ガスを検知しました。



図5 弥陀ヶ原 地獄谷地図 (図3、図4の位置を図中に示す。)